

. . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .

. . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .

. . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .

. . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .





此の世とて... 昔の昔の昔... 柳... 植置... 唐衣...

柳... 唐衣... 袖白妙のうた花の...

唐衣... 袖白妙のうた花の...

二人静

二人静... 柳... 唐衣...

料方きりかき多恨しむらうせ  
 去程よが第へは道せり世に成  
 て此出まむ入るはま法ありま  
 一盤乃花よ宿かきしよ  
 かあしけの枝あは移せむ藤と  
 花もちりり葉は一葉一花のり  
 あしつなふ葉せかへみはむら  
 てかくしは清く茶のあは入る  
 の皇子はささるもてははさ  
 諸公もれこさむと頼たまひ  
 けりし女はまののり

乃離我さうちらゆき落ても後  
 かしありけりおそもみよのた  
 の葉木陰乃花の香もたまふ  
 奥出乃まむらさき春の枝乃  
 月きたほりちをちのり  
 けりし花よ身を捨て遊子あ月  
 花よあててきたまむ昔は年  
 けりし花よ身を捨て遊子あ月  
 花よあててきたまむ昔は年  
 けりし花よ身を捨て遊子あ月  
 花よあててきたまむ昔は年



一、...  
 二、...  
 三、...  
 四、...  
 五、...  
 六、...  
 七、...  
 八、...  
 九、...  
 十、...  
 十一、...  
 十二、...  
 十三、...  
 十四、...  
 十五、...  
 十六、...  
 十七、...  
 十八、...  
 十九、...  
 二十、...

一、...  
 二、...  
 三、...  
 四、...  
 五、...  
 六、...  
 七、...  
 八、...  
 九、...  
 十、...  
 十一、...  
 十二、...  
 十三、...  
 十四、...  
 十五、...  
 十六、...  
 十七、...  
 十八、...  
 十九、...  
 二十、...

此方より来るべきは福は無限なり

此方より来るべきは成道僧

此方より来るべきは一國の

此方より来るべきは

此方より来るべきは感陽宮

煙のなるは山風吹落く

此方より来るべきは

此方より来るべきは

此方より来るべきは

此方より来るべきは

東方より降る三日月 南方より軍叱利

夜叉明王 西方より大威徳明王

方より金剛夜叉明王 中央より大日大

不動明王 唵呼嚩呼嚩旋荼利

摩登枳唵阿毘那呼大沙婆唵阿唎多

尸吒于轄 見我牙者發善悅心

同我名者勸惡修善聽我説者

得大智慧智我牙者即身成佛即

身成仏明王乃まをて

貴くもせむ

鬼女成妙





雨の音は 遠くから 聴こえてくる

波の音は 舟の揺れを 知らせる

水の音は 高根の 葉を洗う

朝の音は 鳥のさえずり 空を渡る

羽の音は 風を切る 速さを示す

足音の音は 大地を 踏みしめる

葉の音は 木を揺らす 静けさを

木の音は 根を揺らす 大地を

水の音は 舟を揺らす 静けさを

雨の音は 遠くから 聴こえてくる

定有難きは 雨の音 舟の揺れ

舟の揺れは 静けさを 知らせる

静けさは 舟の揺れを 知らせる

舟の揺れは 静けさを 知らせる

静けさは 舟の揺れを 知らせる

舟の揺れは 静けさを 知らせる

静けさは 舟の揺れを 知らせる

舟の揺れは 静けさを 知らせる

静けさは 舟の揺れを 知らせる

舟の揺れは 静けさを 知らせる

静けさは 舟の揺れを 知らせる

舟の揺れは 静けさを 知らせる



ほうりてうらうらひとほろほろさけりてあり  
 くりの鼓の時は五穀成就  
 神徳と威光を敷けたりして  
 御祖乃神の如の様に立てて  
 せむしとておのまじくも  
 けりてありて  
 りてありて  
 りてありて  
 りてありて  
 りてありて  
 りてありて

俊寛

樹を感てて花も海も  
 根

こゝろ身もふるふるてさきなりとも  
 鳴る鬼界が鳴るとありて  
 成るものとなりて  
 動力鬼神も感てて  
 あるものとて鳴る者  
 ともありて  
 後たる者ありて  
 後なるものありて  
 経康頼とてありて  
 も囀紙よとありて





一、...  
 二、...  
 三、...  
 四、...  
 五、...  
 六、...  
 七、...  
 八、...  
 九、...  
 十、...  
 十一、...  
 十二、...  
 十三、...  
 十四、...  
 十五、...  
 十六、...  
 十七、...  
 十八、...  
 十九、...  
 二十、...

一、...  
 二、...  
 三、...  
 四、...  
 五、...  
 六、...  
 七、...  
 八、...  
 九、...  
 十、...  
 十一、...  
 十二、...  
 十三、...  
 十四、...  
 十五、...  
 十六、...  
 十七、...  
 十八、...  
 十九、...  
 二十、...













高麗の王

異服

高麗の王は神代皇居に韓をききて入給  
しより和國異朝は道ひりて  
の國はなびく世乃我日の幸の長岡  
あるは代の光りあは移けて國を  
たのむなり 東南雲流り  
西は同静あり 應神天皇は守  
かゝる異國の勅使此國よめて来り給  
しよあちちのち乃女帯より萬  
里の滄波をきよきよと西日教あり

あゝ異朝乃西のちをききて西の  
つよき世のちをききて西の  
衣とちの勅使奉命をきかぬ敷感  
るよき世のちをききて西の  
衰龍の序衣乃紋をききて西の  
山とちの勅使奉命をきかぬ敷感  
雲身とちの勅使奉命をきかぬ敷感  
代は絶き清調ありて西の  
ちとちの勅使奉命をきかぬ敷感  
あゝ異朝乃西のちをききて西の  
あゝ異朝乃西のちをききて西の





て打たせしむる事なれば

しと責鞭し 具時付とさきん

まに判唐よりなれし浪おる

て流れし 具折しむる塩かへ

属し流しむるさへ 敵おる

やうし 駒を浪向しむる敵

おちし 敵 敵おる

よつし おる 難手おる 敵おる

やうし 給し 敵おる

を切らひ 終しむる敵し 本は諸

打ちし 具時 敵おる 口惜

乃はし 舞やおる 渡唐し 具時

し 是れ 社人 敵おる

海を 敵おる 難手おる

経源平より 敵おる

敵おる 佳名 敵おる

敵おる 敵おる

敵おる 敵おる

敵おる 敵おる

敵おる 敵おる

軍の 敵おる 渡









前 . . . . .

まへへいそひあかへくさへつふまふまふ

いして行家勲の歸らまはくつりかお町

まはくつりかお町まはくつりまはくつり

てはつりへくさつりまはくつりまはくつり

まはくつりまはくつりまはくつりまはくつり

まはくつりまはくつりまはくつりまはくつり

まはくつりまはくつりまはくつり

葛城

まはくつりまはくつりまはくつりまはくつり

葛城まはくつりまはくつりまはくつり

まはくつりまはくつりまはくつりまはくつり

まはくつりまはくつりまはくつりまはくつり

まはくつりまはくつりまはくつりまはくつり

まはくつりまはくつりまはくつりまはくつり

まはくつりまはくつりまはくつりまはくつり

まはくつりまはくつりまはくつりまはくつり

まはくつりまはくつりまはくつりまはくつり

まはくつりまはくつりまはくつりまはくつり

まはくつりまはくつりまはくつりまはくつり

まはくつりまはくつりまはくつりまはくつり

まはくつりまはくつりまはくつりまはくつり

まはくつりまはくつりまはくつりまはくつり

まはくつりまはくつりまはくつりまはくつり

まはくつりまはくつりまはくつりまはくつり

まはくつりまはくつりまはくつりまはくつり

まはくつりまはくつりまはくつりまはくつり

少勢く葛城の山伏乃あましむら  
あ神の杖して身を休め給へあ身を  
かき給へ給

岩橋の昔乃夜の神入しては  
彼古城乃神ころあつては  
一志教れ  
光乃歌よあつては女養の賦と無  
正見の月よら  
山よ法味よ  
勅りたり

山は幸後より女神の神と  
出ろ年い  
葛城乃  
岩橋乃  
あ  
の神  
う  
あ









...サ...  
捨取不捨 為一切世間説此經信  
...  
法是為甚難 言も此法を  
...  
信をも難  
...  
頼め 頼めやきの免  
...  
慈悲加祐 念心し  
...  
十色も 一色有が  
...  
鐘の音 鐘の音  
...  
乃妙音の見仏圖法は  
...  
事 西方  
...  
法  
...  
法

の聲の  
...

6  
828

漢 齋 不 許

明治四十三年二月二十日印刷  
明治四十三年二月廿五日發行

(雜子臨内奥附)

東京牛込區新小川町二丁目拾番地

訂正者 觀世清康

(電話番町三百拾六番)

京都市上京區三條通慈屋町東北角

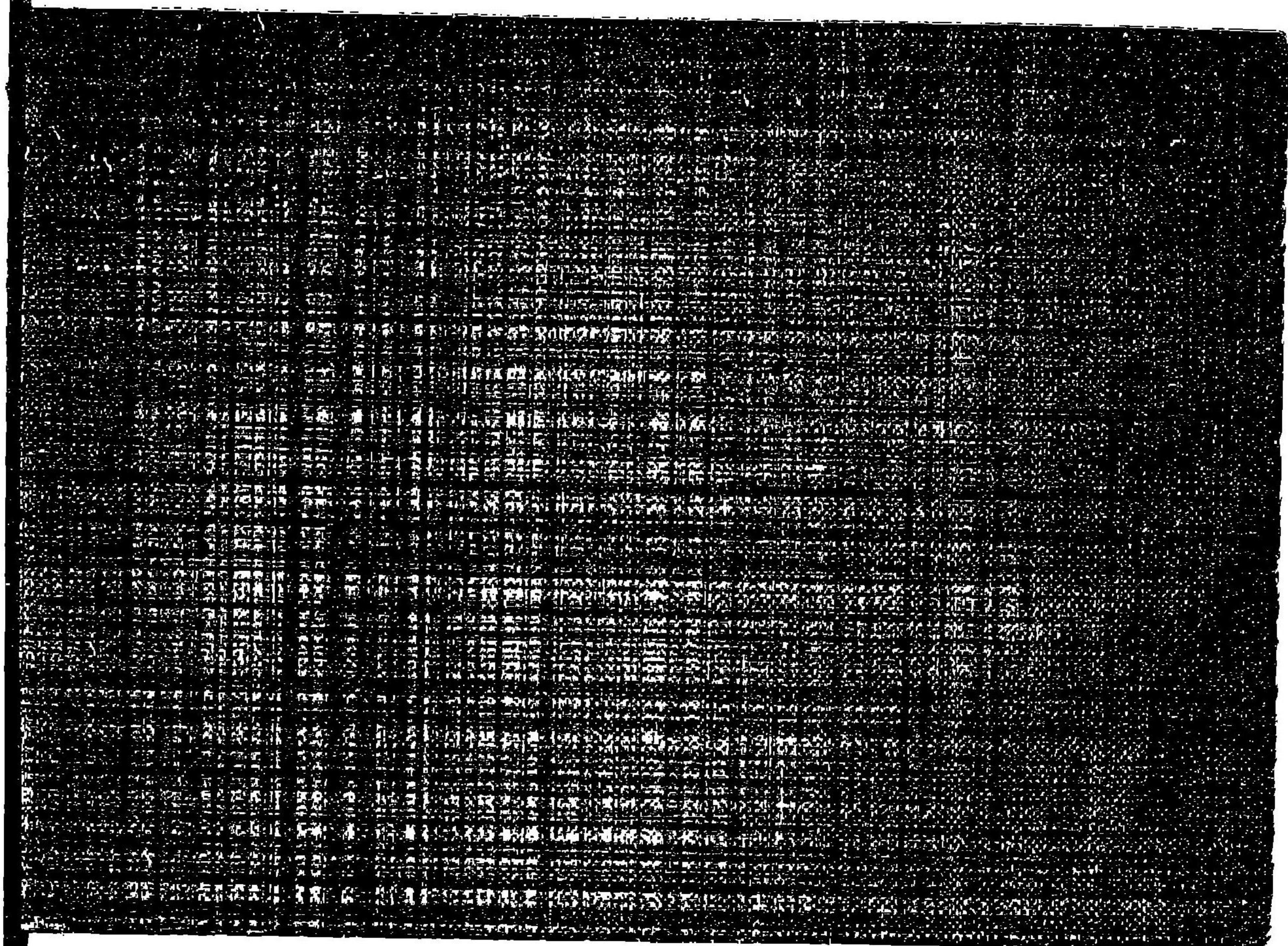
發行所 檜 常之助

(電話特二千百九十番)  
(振替貯金大阪三六二八番)

特約店

東京市淺草區新橋區第十一番地

印刷所 檜 常次郎



6

328

074958-001-5

6-328

觀世流囉子謠大成

觀世 清廉/訂

M43

CEL-0694

